履　正　社　　柔　整

―　医療費介護費の削減に効果的な資格として、柔道整復師が見直される日　―

学科長　田中　雅博

こんにちは。2 年半あまり、新型コロナウィルス感染症の拡大の影響で、季刊報としての発刊が滞っていました。
ご愛読者の方々には、大変申し訳ありませんでした。政府からの発令や措置も終了し、2022 年の夏号として、再開いたします。

さて、真夏の季節が来ました。まだ完全にマスクを取り元の生活に戻ることはできていませんが(4 月現在)、重症者や死亡者数はずいぶん減少しており、少し印象は和らいだと感じます。卒業生や実習先の接骨院などにも患者が戻っており、これからも基本的感染対策を徹底し、政府が目指す社会経済活動との両立にむけて取り組んで参りたいと考えています。これまでにも同じようなテーマを上げた記憶がありますが、なのにまたか、というご諸兄もいらっしゃるかと存じます。社会保障に関する費用なかなか実感を得にくいものですが、今回のコロナ禍の影響で、確かに“これはまずい”、とリアルに感じた事がございます。**それは出生数です**。

詳細な分析や対応は専門書に譲りますが、令和 3 年は 84 万人、令和 2 年 87 万人、令和元年 90 万人と、晩婚少産化にコロナが追い打ちをかけて大変な事態になってしまいました。将来、生産労働人口が減少し、財政収入が減少するとともに、年金受給世代が激増し、社会保障費に大きな影響が来るのは必至です。**医療介護の業界においては、医師でなくてもできることはその他の職種につまりタスクシフト・タスクシェア、医療でなくてもできることはその他の業種に、公費が投入されている医薬品等で、本当に必要な物だけを健康保険扱いとする。**この 3 次元での移行を強力に至急に進めるべきです。筆者の周囲の状況や環境で、その動きが感じることはありますが、抵抗勢力が原因なのか、既得権益の保守なのか、不満があるのは事実です。

具体的な私案として、レントゲン撮影から超音波エコー観察の活用へ、医療リハビリから介護の機能訓練指導（訪問機能訓練指導の制度創設）へ、四肢などの軽微な骨折や脱臼は、医師のオンライン同意活用で柔整に移行、独居などで日常生活に支障が出る軽症の外傷や運動器系障害は、接骨院の保険適用入院制度創設など、考えると柔道整復師の施術（処置と後療）を利用して医療費介護費を削減できる幅はいくらでもでてきそうで、導入、創設むけて、早急に教育制度改革と必要な教育内容の投下をすべきだと感じます。公益社団法人日本柔道整復師会の理事で、公益社団法人奈良県柔道整復師会の川口貴弘会長は、広報誌“まほろば通信”の 4 月号で、次のように述べられています。以下、筆者の責任の下、内容文意を変えずに要約し、掲載します。

『コロナ禍で高齢者のフレイル予防において、接骨院で介護予防機能訓練や待合室での集いの場の提供、さらには自宅へ訪問して行う介護予防機能訓練・運動指導訪問こそ、柔道整復師にふさわしい仕事である』と述べられ、また伝承医学として守るべきものは守り、地域と社会に要請されているサービスを提供すべきだと、記載されています。各保険取り扱い高が減少し、接骨院売上高を補填する事でも、今後業界でも柔道整復師の技能と知見を活用した、社会貢献と役割を推進されると思います。

最後に、強烈な少子高齢社会が到来します。国家財政収支バランスが破壊される前に、**破壊と創造のビックイノベーションが必要**であることは言うまでもないでしょう。その一役を担うために、魅力ある柔道整復師が注目され活躍と貢献ができる事、私は願ってやみません。

＜初★学年合同交流会＞

毎年、入学したての１年生が、フレッシュセミナーと称して１泊２日の宿泊研修を行って早十数年。ここ２年はコロナ禍の影響で、現在在学している１年生から３年生は実施できずにいました。

そこで、何か別のことで交流を広げることは出来ないかと、実施されたのが、今年初めての試みである、３学年合同の交流会（履正林でも紹介しています）です。チームビルディングを通じて、コミュニケーションを図り、縦の繋がりと横の繋がりを作るのが目的です。

１年生は先輩たちを目の前にやや緊張した様子、２・３年生はさすがに慣れた雰囲気で集合場所に集まってきます。３学年をごちゃまぜにした班を組み、色々なアクティビティに挑戦してもらいました！

最初は、ぎこちない雰囲気だったものの、上級生が上手く引っ張ってくれた班もあれば、下級生が率先して動く班も見られ、なかなか良き雰囲気でした。特にお昼ご飯のＢＢＱが一番打ち解けたのではないかと、筆者は感じております。１年生の感想を見ていると、来年は自分たちも先輩達みたいに出来るようになりたいなどと書かれており、初めてで準備期間も少ない突貫工事でしたが、何とか無事に終了することができました。（自画自賛…笑）

おまけ：この２人別人です。似すぎて、教員やクラスメイトまでもが間違えてしまうことも（笑）
左が２年生　樋上くん、右が３年生　小川くん。
ちなみにどちらも名前が「太陽」なのも偶然なのか！？

＜各学年の動き＞

○１年生：１年生のみなさん、入学してから早４か月が経ちました。専門学校で初めての試験も向かえますね。初めてのことだらけで、戸惑いや不安も多いかと思います。クラス一丸となって乗り越えていってください。何かあればいつでも職員室へカモン！！お待ちしています。（担任：竹内・辻井）

○２年生：暑い！暑い！暑い！暑い夏がやってきましたね。臨床実習が始まりますが、体調管理を怠らず現場で学べることをしっかり学んできてください。将来の就職につながるように考えられる実習にしてください。何事も経験ですね！良い経験をしてくださいね。（担任：西・福田）

○３年生：いよいよ最終学年。単位追認試験も２回目終了となりました。あと数か月後には社会人として働くことになり、誰かに甘えを言える環境でも無くなります。成績管理、スケジュール管理等、取りこぼしの無いように。あとで何とか～ってなっても何ともならないので。。（担任：桃井・山根）

＜語録「履正林」＞

1．2024 年新校舎へ移転： **今年、学校法人履正社は創立 100 周年**を迎える。その 100 年に十三駅北側、**阪急京都線沿いに 9 階建ての新校舎建設が着工**される。話では現在の約２倍のキャパシティーだそうだ。完成は 2024 年 4 月。最上階屋上からのロケーション（予想）だが、淀川をみれば、川の向こうに梅田の摩天楼がそびえている。南をむけば、淀川河口先に大阪北港南港の先に船の灯りが見える。西に目をむけば、神戸六甲山ろくの 100 万ドルの夜景が見える。北には新大阪駅に出入りするスーパーエクスプレスが見える。誠に最高のロケーションだ。今年入学した学生は 3 年生から新校舎だ。計画では、2026 年に新校舎の道路隔てて向かいに、どでかい 50 階ほどのビルができて、１階にはメガ図書館や飲食やスーパー、雑貨など多くのテナントやショップが入居するらしい。向こう３年、**履正社と十三駅周辺のビックフルモデルチェンジ**にご期待いただきたい。教務のでかい M 先生は**『屋上で淀川花火大会が鑑賞できますね、カンパイしながら最高のロケーションですよ』**真っ先に新校舎に向けての感想がカンパイ花火大会とは、彼が名実ともに大器晩成型であることをあらわしている。

2．クロムブック： 履正社医療では、２年前の感染症拡大（緊急事態宣言発令）で学生の履修が滞らないように、真っ先に遠隔授業を導入した。しかし、パソコンを持っている学生比率は高くなく、スマートフォンで視聴していると、画像が小さく画素も雑で、注視する事で目や頭に疲労がたまると感想を聞いた。そこで、**１年前（現在の２年生）から一人１台のクロムブック（ノート型のパソコン）を貸与配布し**、問題の解決を図った。今年の１年生にも配布し、視聴の感想は快適だそうだ。ペーパーレスにも貢献でき、クラスルームというアプリを使うと、担任などからの教務伝達、履修課題の整理、提出、集計分析にも大きな役割を果たす。筆者の進路就職面談の際のデータ収集にも効果的だ。対面式に比せば、完成度は低いがオンライン授業でも、工夫すれば実技実習も可能であり、演習とプレゼンも学習効果は十分だ。教務の F 先生は、『今どきの子供たちなら、すぐに使いこなせます、**柔整学校では全国の先端を走っていますね**』と、年齢の割に、平素からパソコンやスマートフォンを使いこなす技能はすばらしいが、職員室では『○○ちゃんのサマーコンサート（クリスマスコンサートは中止だったらしい）が再開したので、ぜひ行きたい』の話はお控えいただきたい。

3．学校名変更： 100 周年を記念して、学校名を『履正社国際医療スポーツ専門学校』に変更した。3 年前にスポーツ外国語学科を設置した経過もあるが、医療 3 学科とも履修単位に海外研修（任意、現在見送り）を組み入れており、**国際感覚を身に付け、海外の比較医療も理解できる医療専門職に育成**したいとの願いもある。コロナで 2 年間中止せざるを得なかったが、学校名にふさわしい人材育成に取り組んでいきたい。教務の N 先生は『そのうち柔整にも留学生がたくさんきて、英語が飛び交い、**インターナショナルな柔整学校になれば、他校と差別化できますよ**』と感想を述べていたが、その挙動には英語が話せない動揺は隠せなかった。

4．オール柔整ワークセミナー： コロナの影響で、1 年の 5 月に開催している、フレッシュセミナー（1 年の一泊研修旅行）が 2 年間なくなった。今年の新入生も準備が間に合わず、開催できない。そこで、日帰りのワークセミナーを柔整学生と柔整教職員**すべてが参加するオール柔整ワークセミナーを開催**することにした。医療専門職となるための、集団トレーニングやチームアクテビティを通じて、チームビルディングやコミュニケーションスキルを推進するためのセミナーだ。開催前に簡易検査も行い、マスク消毒などの対策も欠かさない。1 年担任で、今回で担任 5 回目のキャリアを持つ、**超ベテランのＴ先生は『コミュニケーションがしっかりとれるように、チャンスを作ってやらないと、いくら免許を取っても本当に大切なのは、患者さんと気持ちが通じ合える事なのよ』**と、小児科で 3 年間の臨床経験をもつＴ先生らしい一言だ。しかし『年々、学生のお姉さんからお母さんに近付いているのよ』という一言にコメントを入れる先生は周囲にいなかった。

5．阪急電車ラッピング： われらが阪急電車のラッピングが年々激しさを増している。過去には、宝塚線は、歌劇団、リボンの騎士、神戸線は、みなと神戸や異人館の風景、京都線は、古都京都の風景やもみじや桜の季節感あふれるラッピングで、全線にこうペンちゃん（皇帝ペンギンのイラスト）も登場した。最近は SDGS トレインとして愛らしいキャラクターが登場している。**特に京都線の商売ガタキの京阪電車も、京都の古風で高貴なラッピングを施しており、両社のラッピング競合はむしろ乗客からすれば好感だ。**教務の Y 先生は『電車のラッピングいやイラストは、子供たちがよろこびますよね、何ともメルヘンだ』と感想を述べていましたが、お子様 2 人のいる父親としての所帯じみた風体は、隠せなかった。

＜タナカジャーナル＞

『コロナ禍が残したもの、教えた事』

2 年半余りも凡事が制限され、日常生活活動の制約、辛抱、条件行動、忍耐などなど、コロナがなければ、凡事の幸せと、快適は絶対に感じることはなかったであろう。オンラインを使った、授業も会議も出会いも、すべてあり得なかった事。**オンラインの活用が、日常生活、社会生活、これまでの文化を大きく変化させたことがあらためて、人類の利益と発展であること、あらためて教えられたことでもある。**

人間は追い詰められてこそ、本来知りえなかった、未知の領域や、理解はしていても行動できなかった、不可能であろうことも、乗り越える手段を追求し、研究、開拓してきた。決して、コロナの影響を称賛するわけではないが、もしこの 2 年余り、コロナが出現しなくても、現状社会があるかという仮説には、多くの方が異を唱えるだろう。人間は、長い時間をかけて利便性や効率性、収益性を求めて、高度な技術や文明を切り開いてきた。**新薬開発プロセスの歴史を拾えば、5 年かかる所が、なんと 3 か月で完成したニュースは、これまでのプロセスが正しかったのか、知りたくなる。**新薬開発以外にも、社会変容と変革によって驚くべきスピードで処理や完成ができた事があるだろう。この視点でも考えてほしい。

追い込まれて、崖っぷち、限界を感じこそ、人は能力を最大限に引き出す。きっと自身もそうであるが、逆に追い込まれず、危機感もなく、幸せに豊かに過ごしておれば、テーマにも上げた“破壊と創造”にチャレンジする事ができないのだろうか。**私にはこれまでの動きが柔道整復師の未来と重なって見える。**

☆教務室からのはみ出し寸言☆

新聞や雑誌で目にとまった記事、誰かとの会話、まち角の看板、ネットの広告などから感動した、共感した、泣けた、じーんときた、などのワードやセンテンスを紹介します。

松本清張不朽の名作、『ゼロの焦点』のワンフレーズ

『煩悶を抱いて
永遠に消えることにする』

この作品は、大学の時に筆者が出会った最も感動した一冊だ。私情に発展するので詳しくは省略するが、金沢を舞台に繰り広げられたミステリー小説。大学時代だけでなく、家内とも**聖地巡礼には何度も足を運んだ。メイン**キャストを変えて、テレビで数回放映されている。
すべての結末は、このワンフレーズにこめられている。

当然エピローグを知っているが、今でも読み返したい感動の作品。同情の諸兄とぜひ、振り返りながら一杯交わしたいものだ。